



編集発行
愛の園後援会
和歌山県西牟婁郡上富田町生馬
TEL 0739-47-1234 〒649-2103
振替 00920-24155

成熟した人生を！

会長 上羽 寛

吾れ十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従って、矩を踰えず。(孔子)

「論語」に出てくる有名な一節である。孔子は、生まれてまもなく父を失い、母に育てられ、貧しい生活のなかで、いろいろな職業を転々としたのち、学問の道を目指すようになる。中国春秋時代の当時の学問は、文字の読み書き、冠婚葬祭の礼儀作法など、雑学の域を出ないものだったようだ。孔子の七十余年の生涯の本質を語り尽くした自叙伝である。

めた。三十歳では自立を果たし、未来への基礎固めができた。四十歳では生き方の悩みを乗り越え、精神の安定を得た。五十歳では天が与えた使命を悟り、それに打ち込むようになった。六十歳では自分と異なる意見をも受け入れる寛容を覚え、七十歳では心の思うままに振る舞っても、道理を踏みはずすことはなくなった。こうした孔子の教えは今の世にも十分に通用する。人間としての成熟とはどういうことか、どういう生き方、考え方でその安定と実りの境地に達することができると、後世に伝え残してくれている。

高年齢が進むなか年々気にせず、残りの人生目標を定めて、ユーモアで楽しく、柔軟性をも忘れず、他人の過ちにも寛大な心で接し、精神的自立を保ちながら、前向きに過ごし続ける。成熟した人生を送りたいものだ。

「孔子人生語録より」



室内でのお花見の様子

薄型テレビ贈呈式



感謝をこめて

理事長 宮崎靖子

ドキドキ、ハラハラの理事長就任から一年が経ちました。出勤初日の事でした。手に一輪の百日草を持ち、介護士さんが押す車椅子に乗ったOさんが「花には水、人には愛」と大きな声で言っていました。私の傍を通り過ぎました。入居者の方から聞いた初めの言葉でした。

なさいな事でも今自分が出てくることに誠意を尽くす事、そしてすべてに感謝したら又ゼロからスタートすること「甲(こうら)から」の言葉からそんな生き方を示してもらいました。

「甲(こうら)より大きな欲は持たぬ」と毛筆で書かれた色紙の個性のある字が飛び込んで来ました。初めての印象はとも強烈で、「花には水」との声が耳朶にひびき「甲(こうら)より」が目に見え付きました。今置かれてる役職に対してあまりにも微力である自分が分り悩んでいただけに「甲より」の言葉は大きな励ましになりました。

後援会の方々の力強い御支援・家族の会の温かい御支えあってこそ、新しい地での愛の園は内外共に充実出来るのだと感謝致しております。この地での愛の園も三年目、建物に魂が入るにもそれなりの年数がかかると思えます。そこに生活なさる人達の思い、職員お一人お一人のビジョン、心意気、使命感そして苦悩、それが浸み込んで愛の園が造り上げられて行くと思う時、いつも、どんな事があっても、真ん中に老人の方たちがおられる、「此処は、その名前の通り愛の園だ!!」と喜びを持って、誇りを持って活動出来る場、生活出来る場であって欲しいと心から願っております。そして皆さんに心からお礼を申し上げます。

短歌教室より

新谷園子

・乳母車に子供を乗せて磯遊び 引き潮待ちて母楽しみの
・友の来て一服の茶をすすりのむ 恩師の作法浮かべつつあり
・高台の観音詣り参道に あじさい見し日の夫を思ほゆ
・夜勤さん娘の如優し何くれと 氣くばりくるるに涙しにじむ

澤好子

みんなが幸せになるために

園長 武藤直一

私たち神愛会は、社会「福祉」法に定められた社会「福祉」法人として認可され、高齢者のための社会「福祉」施設を運営しています。特別養護老人ホームは老人「福祉」法に定められた事業であり、介護保険法では介護老人「福祉」施設と呼ばれる、介護施設と呼ばれる、また、私たちの職場では大勢の介護「福祉」士が入居者・利用者のために働き、「福祉」車両で毎日の送迎を行っています。私たちの目的は高齢者の「福祉」に貢献することであり、「福祉」という言葉はこのように日常的にまた身近に使われています。

では、福祉とはいったい何を意味しているのでしょうか。私たちの働きのあり様を考える一助として、言葉の意味を辿ってみたいと思います。私の手近にある国語辞

典には、「福」も「祉」もどちらも幸福や幸せを意味する漢字と書かれています。また、どちらも示偏の漢字ですが、「示」は神様への捧げ物を乗せる台を表す象形文字が変化したもので、転じて神様を表す言葉となつていくそうです。さらに中国の古典では、福祉とは「天の恵みによって幸せな生涯をまっとうして喜ぶこと」の意味に用いられていることがわかります。福祉とは「豊かに恵まれ、身も心も神様と共にあるような幸せな状態」を表すことと解釈できそうです。「神様と共にいるような幸せ」とは、心の平安、身体の健康、良好な人間関係などが想像されうれしくなつてきます。同時に、「豊かに恵まれる」内容として福祉には物質的豊かさも欠かせません。生活のために働かされる子どもたちには、健やかな成長のための食料品と可能性を拓ける教育の機会を保障することが福祉の役割です。愛の園に集う入居者・利用者の皆さんに対し、適切な介護と医療、おいしい食事、安全で清潔な環境、社会との絆など、質の高いサービスを継続して提供していくことができるよう、気を引き締めて毎日の業務に臨んでゆかなければとの思いを新たにいたします。

ところで、「幸せ」は「仕合せ」とも書きます。「キリストの愛を以って互いに仕える」ことをモットーとしている私たちは、神様と共にある幸せ(仕合せ)のために働くことが求められています。私たちの働きが、入居者・利用者の皆さん、ご家族、地域の方々、働く職員、みんなの幸せに繋がることを目指したいと願っています。後援会の皆様の熱心なお支えを心よりお願い申し上げます。

感謝！感謝

ショートステイ利用者ご家族

小出 恵子

母が愛の園のショートステイを利用して頂いて二年半程になります。初めて伺った時から現在も変わらず感じる事は、玄関を入ってスグ、事務職員の方々、看護師、介護士、スタッフの皆様の笑顔が素晴らしい事です。

母を送って来て「ホッ」と肩の荷を下ろしたように思う自分自身も情けないのですが、本当に園を包む太陽の光に負けないような皆様の明るい笑顔と温かさに、母を安心して託す事が出来ます。又、餅つきやピアノコ

ンサート・ドッグセラピー等々、色々な行事もあり、認知症で要介護四の母からは、どんな事をしたとか感想など言葉で聞く事は出来ませんが、迎える行った時にみる母の表情から、楽しく穏やかな癒しのひとときを過ごせた事が確信出来ます。

家業の関係上、遠出する事も多い私にとって、ストレスも殆ど無く、この生活が維持できているのは、愛の園のおかげと感謝いたしております。どうぞこれからも、母共々末永くヨロシクお願い申し上げます。

医務室の思い

看護主任 山中 美智子

新施設に移転し、あっという間の三年が過ぎ、利用者様一人一人が落ち着いた毎日を過ごされて居る今日この頃です。今年の春の「新型インフルエンザ」等の報道にて「感染対策」として、協力を頂き、生活面に制限があり何かと御不自由であった事と思われませんが、六月に入り感染も和らぎ利用者の方々の元気な声が園内に響き、車イスを自走され顔面に微笑を浮かべ健康教室、各行事へと参加される姿を見て「あー良かった。」と共に笑い合える事が一番嬉しいひとときです。今日は

「いつもと違う」と健康状態の観察をさせて頂きながら、早期発見、症状の緩和、早期回復へのお手伝いをさせて頂き利用者様の楽しみや日常生活が向上出来る方向へと共に共同作用し援助させて頂き、又利用者様一人一人の意志を尊重し、穏やかに、安心して生活して頂ける様、医務室、看護師一同、全力を尽くしてゆきたいです。

現在、感染予防に力を入れて取り組んでいますので御面会時には手洗い、うがい等の御協力をお願い致します。

濱野夕キ修女様の二周年忌に際して

後援会役員 松本 一郎

濱野修女様がお亡くなりになりましたから早くも一年の月日が流れたのだと思いますと、つい先日のことのように思っていたのが自分でもびっくりする心地です。

私達テレジア会、有志七名は、去る四月十六日より一泊二日の日程で、栃木県小山市東島田にある日本聖公会北関東教区「小山祈りの家」を訪れ、満開の桜と木々の淡い緑が芽吹き爽やかな春風薫る霊園に眠る濱野修女様の墓前にお祈りを捧げて参りました。

林の向こうから、どこからともなく聞こえてくるウグイスのさえずりに、いつもにっこりと優しく微笑まれた濱野修女

様のお姿を思い出し、改めてお世話になった感謝の意を込めてお礼を申し上げると共に「愛の園」をお守り下さいますようお願いを捧げました。

木村初代神父様や最も尊敬崇拝されていた深田修女様のそばで、群馬県榛名の時代に始まり、岩田幼稚園設立時代、愛の園時代等々、苦楽を共にした日々のご懐かしさ語り合っておられることでしょう。

墓石に記された「視よはらから相ともに居るはいかに楽しきかな」の句に、懐かしさと相まって上富田町に福祉の種をまき、愛と熱意を込めて全身全霊で取り組まれたご功績の数々が蘇り、私は感慨無量の思いに胸がつまりました。



栃木県小山にて テレジア会有志7名

私は、濱野修女様の御心を自分の心の中に生かすよう努めますと誓い、今後多くの皆様のお力添えを頂き「愛の園」のますますの発展を期したいと思います。

収支計算書

(2008/4/1 - 2009/3/31)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	3,023,416	後援費	872,000
会費	939,655	印刷費	43,050
雑収入	3,757	通信費	38,270
(収入小計)	943,412	払込手数料	16,100
		雑費	420
		(小計)	969,840
		次年度へ繰越	2,996,988
計	3,966,828	計	3,966,828

入所者状況 (2009年3月31日現在)

	田辺市	西牟婁郡			その他	計
		上富田町	白浜町	すさみ町		
男性	15	4	1	1	0	21
女性	40	19	7	1	2	69
計	55	23	8	2	2	90
構成比(%)	61.1	25.6	8.9	2.2	2.2	100.0

ありがとうございました

長い間後援会役員として御尽力下さいました木下義夫様、福山守八様、二〇〇八年度をもちまして退任されました。殊に木下義夫様は、後援会発足時に力強く支援して下さいました。これまでのお二人のお働きに心より感謝致します。

会員状況

地 区	2007年度会員数	2008年度会員数	前年比
田 辺 市	281	277	-4
上 富 田 町	204	204	0
白 浜 町	25	26	1
県内他市町村	24	26	2
県 外	33	37	4
合 計	567	570	3

会員会費納入状況

地 区	2007年度納入人数	2008年度納入人数	前年比
田 辺 市	107	74	-33
上 富 田 町	92	75	-17
白 浜 町	12	5	-7
県内他市町村	8	8	0
県 外	23	21	-2
合 計	242	183	-59

役員

- 会長 上羽 寛
- 副会長 宮本 照男
- 会計 中井美智子
- 会計監査役 松本 一郎
- 幹事 中瀬 勝世
- 田辺市 広瀬 宗一
- 上富田町 後 満
- 遠山 節子
- 田上さよ子
- 山際 幸子
- 事務局 堀 美都子

編集後記

「後援会だより」は今回、第二十八号を発行する事が出来ました。二〇〇八年度の後援といたしまして、一面の写真で紹介させて頂いておりましたが、五〇インチの薄型テレビを一台と、ショートステイゾーンに二〇インチの薄型テレビを二〇台寄贈する事が出来ました。

特に小型のテレビは出入りの多いショートステイ利用者の方々に重宝していただいている様子です。ここに書面で御報告させて頂いていただきます。

愛の園後援会事務局

0739 47・1234

現在会員数が減少している状態です。会員の皆様からも入会をお願い並びに会費の納入をよろしくお願い申し上げます。